

「2週間後 病床なくなる可能性」

大阪 専門家に危機感

緊急事態宣言の要請を決めた8日の大阪府対策本部会議では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、厳しい意見が相次いだ。

「重症者数が高止まりのままであれば、2週間後には本当に入院病床がなくなる可能性が高い」。府専門家会議の委員を務める、りんくう総合医療センターの倭正也・感染症センター長はこんな意見を寄せた。病床の逼迫が続いているためだ。

府専門家会議の座長を務める大阪大大学院の朝野和典教授（感染制御学）は「中国の武漢で起こったような急激な感染拡大が日本でも起こっているのだろう」との意見を寄せた。府の担当者は「感染がさらに拡大し、確保病床をオーバーフローする恐れがある」と分析する一方で、「努力は続けたいが、病床を劇的に積み増すことは難しい」とした。

政府の専門家分科会による感染状況のステージについて、大阪府は最も深刻な「ステージ4（感染爆発段階）」の七つの指標のうち六つを満たした状況だ。11月下旬にステージ4に迫った後、陽性率の低下などでいったん遠ざかったが、確保している重症病床の使用率は70%前後と高止まりが続いている。

（笹川翔平）